

黑谷程人傳
七

分類 254 部
第 189 号
全 10 册卷
佛 教 大 学
図 書 館 所 蔵
受領第 149646 号
昭和 年 月



0931 貴 年
20 重 月
7 葺 日
佛 教 大 学 蔵 書
第 149646 号



149646

21177



本朝祖師繪詞第七

三卷十

山門南都訴_事詔_事

上人門弟連暑起請文事

月輪殿座主僧正被進御消息事

付座主被進起請文事

其後興福寺訴詔事

上人登山狀事

鹿谷別時念佛事

配所事 官人小松谷御房向事

三月十六日花洛出給事

攝津國經嶋著給事

三卷十

三卷十



幡磨國高砂浦寺給事

同國室泊著給事

三卷

三月廿六日讚州下着事

同國生福寺住寺事

同國御住特月輪殿御往生事

直聖房熊野山夢想事



黒谷聖人傳繪詞第三十一卷

第一段

上人ノ勸化一朝ニミチ四海ニヲヨブレカルニ門弟ノナカニ專修ニ名ヲカリ本願ニ事ヲヨセテ放逸ノワサヲナスモノオホカリケリコレニヨリテ南都北嶺ノ衆徒念佛ノ興行ヲトカメ上人ノ化道ヲ障導セントス土御門院ノ御守門徒ノアヤマリヲ師範ニオホセテ蜂起スルヨレキコエシカトモナニトナクヤミニホトニ元久元年ノ冬ノ比山門大講堂ノ庭ニ三塔會合シテ專修念佛ヲ停止スヘキヨレ座主大僧正 眞性ニ訴申ケリ

第二段

上人コノ事ヲ聞給テス、ミテハ衆徒ノ鬱陶ヲヤスメリリ
 ソキテハ弟子ノ僻見ヒカミライニシメンタメニ上人ノ門徒ヲアツ
 メテ七箇條ノ事ヲルルヒテ起請ヲナシ宿老シヨラウタルトモカラ
 八十餘人ヲエラヒテ連暑セシメナカク後證セウニソナヘスナハ
 千座主僧正ニ進セラル件起請文云

アマ子ヲ予カ門人念佛ノ上人等ニツク

- 一 イマタ一句ノ文義ヲウカ、ハスヒテ真言止觀ヲ破レ餘
 ノ佛菩薩ヲ謗スルコトヲ停止スヘキ事
- 一 無智ノ身ヲモキテ有智ノ人ニ對シ別解別行ノ輩ニ
 アヒテコノミテ諍論ヲイタス事ヲ停止スヘキ事
- 一 別解別行ノ人ニ對シテ愚癡偏執ヒヤクノ心ヲモテ本業ヲ

弃キケ置セヨト稱レテアナカチニコレヲキラヒワラフ事ヲ停止
 スヘキ事

- 一 念佛門ニヲキテハ戒行ナシト号シテモハラ娼酒イヒキキ食肉
 シス、メタマタマ律儀ヲニモルヲハ雜行人トナツケテ彌
 陀ノ本願ヲ滿クムモノハ造惡ヲオソル、コトナカレトイフ事
 ヲ停止スヘキ事

- 一 イマタ是非ヲウキマヘサル癡人チヤク聖教ヲハナシ師説ヲソム
 キテホシキニ、ニ私ノ義ヲノヘミタリニ諍論ヲクハタテ、智
 者ニララハシ愚人ヲ迷亂スルコトヲ停止スヘキ事
- 一 愚鈍ノ身ヲモキテコトニ唱導ヲコノミ正法ヲヒラス種
 種ノ邪法キヤヲトキテ無智ノ道俗ヲ教化スル事ヲ停止

スヘキ事

一ミツカラ佛教ニアラサル邪法ヲトキテイツハリテ師範ノ
説ト号スルコトヲ停止スヘキ事

元久元年甲子十一月七日沙門源空 在判

信空	感聖	尊西	證空
源智	行西	聖蓮	見佛
道亘	導西	察西	宗慶
西縁	親蓮	幸西	住蓮
西意	佛心	源蓮	源雲
欣西	生阿	安照	如達
導空	昌西	導也	遵西

義蓮	安蓮	導源	證阿
念西	行首	尊淨	歸西
行空	道感	西觀	尊淨
禪忍	學西	玄耀	澄西
大阿	西住	實光	覺妙
西入	圓智	導衆	尊佛
蓮慧	源海	安西	教芳
詣西	祥圓	弁西	空仁
示蓮	念生	尊蓮	尊忍
象西	仰善	忍西	住阿
鏡西	仙空	惟西	好西

祥窳	戒心	顯願	佛真
西尊	良信	禪空	善蓮
蓮生	阿目	靜西	度阿
成願	覺信	自阿	願西

連暑ノ交各カクノコトニ執筆右大弁行隆ノ息法蓮房信空也

緯

又座主ニ進セラル、起請文云近日ノ風聞ニイハク源空偏ニ念佛ノ教ヲス、メテ餘ノ教法ヲソレル諸宗コレニヨリテ凌夷シ諸行コレニヨリテ滅亡スト云コノ旨ヲ傳聞ニ心神驚怖スツ井ニ綺山門ニキコエ議衆徒ニ及テ炳

誡ヲ加ヘキヨシ貫首へ申送ラレ畢此條一ニハ衆勘ヲオソレ一ニハ衆恩ヲヨロコフオソル、トコロハ貧道ノ身ヲモチテ忽ニ山洛ノイキトホリニヲヨフ喜トコロハ謗法ノ名ヲケレテナカク花夷ノ謗ヲト、メンモシ衆徒ノ糾斷ニアラスハ爭貧道ノ愁歎ヲヤスメヤ九彌陀ノ本願云唯除五逆誹謗正法ト念佛ヲス、メン輩△△正法ヲツラシヤ僻説ヲモテ弘通シ虚誕ヲモチテ披露セハ尤糾斷アルヘシ尤炳誠アルヘシノムトコロナリ子カフトコロナリ此等ノ子細先年沙汰ノ時起請ヲ進畢其後イマ々變セスカサ子テ陳スルニアタハストイヘトモ嚴誠ステニ重疊ノアヒ々誓狀又再三ニヲヨフ上件ノ子細一事一言虚言ヲモチテ會

釋ヲマウケハ毎日七萬遍ノ念佛ムナレク其利ヲウシナヒ
三途ニ墮在シテ現當二世ノ依身ツ子ニ重苦ニ沈テナ
カク楚毒ヲウケン伏テ乞當寺ノ諸尊滿山ノ護法證明
知見シタマヘ源空敬白取

元久元年十一月七日源空

第三段

月輪殿コノ事ヲ歎給テ座主大僧正ニ進セラル、御消
息ニ云念佛弘通ノ間ノ事源空上人ノ起請消息等
山門ニ披露ノ、千動靜如何尤不審如風聞者餘行ヲ
トムヘキヨシ勸進ノ條不可然云此條ニヲキテハ善道ノ
意此旨ヲノフルニ似タリ然而旨趣甚深也行者オモ

ユレシイ

ヘシ抑諸宗成立ノ法ヲノヲノ自解ヲ專ニシテ餘教ヲナ
ムトモセス弘行ノ常ノ習先德ノ故實也異域ニトフラハ
月氏ニハス十八千護法清弁空有ノ諍論震且ニハ又慈
恩妙樂權實ノ立破是ヲ我國ニ尋シハ弘仁ノ聖代ニ
戒律大小ノアラソヒアリキ天曆ノ御宇ニ諸法淺深ノ談
アリハ宗キヒテ定準トシ三國傳テ軌範トスレカレトモア
ラカレメ末世ノ邪亂ヲカ、ミテ諸宗ノ對論ヲトメラレテ
ヨリコノカタ宗論ナカク跡ヲケツリ佛法コレカメニ安全ナ
リ就中淨土ノ一宗ニヲキテハ古來ノ行者偏ニ無染無
着ノ淨心ヲ凝シ專修專念ノ一行ニ住ス他宗ニ對テ執
論ヲコノマス餘教ニ比テ是非ヲ判セス獨出離ヲ子カヒカ

但
レ

ナラス往生ヲトクル直道也弘教嘆法ノナラヒ聊又其
心ナキニアラサルカ所謂源信僧都ノ往生要集ノ中ニ
三重ノ問答ヲイタシテ十念ノ勝業ヲホム念佛ノ至要ナ
ル事コノ尺ニ結成セリ禪林ノ永觀德慧心ニヲヨハストイ
ヘトモ行淨業ヲツケリ撰エラトコロノ捨因其心ニタ一ナリ普
賢觀音ノ悲願ヲカンカヘ勝如教信カ先蹤フヒキテ念
佛ノ餘行ニスクレタルコトヲ證ス彼ノ時諸宗ノ輩ハク慧學
林ヲナシ禪定水ヲタフシカリトイヘトモ慧心ヲモトカメス
永觀ヲモ罰ウツセス諸教モ滅スルコトナク念佛モサマタケナ
カリキ是則世スナホ二人ナヲカリシユヘ也シカルニ今代統
季ニヲヨヒ時鬪諍ニムク屬シテ能破所破トモニ偏執ヨリオ

是併

コリ正論非論ミナ喧嘩ニヲヨフ。三毒ウチニ催シ四魔水
カニアラハル、カイタストコロナリ爰小僧幼年ノ昔ヨリ衰
暮ホノ今ニイタルニテ自行オロソカナリトイヘトモ本願ヲタノ
ミ罪業ヲモシトイヘトモ往生ヲ子カフウマスヲコタラスシテ四
十餘迴ノ星霜ヲヲク彌モトメイヨイヨス、ミテ數百萬
遍ノ佛号ヲトナフ傾牟ヨリコノカタ病セリ今アヤラシ歸
泉千カキニアリ淨土ノ教迹キ此時ニアタリテ滅亡シナントス
コシヲ見コシヲ聞テイカテカタヘイカテカレノハン三尺ノ秋
ノ霜肝ヲサス一寸ノ赤焰ム子ヲコカス天ニアフキテ嗚咽
シ地ヲタ、キテ愁悶ス何况上人小僧ニヲキテ出家ノ戒
師タリ念佛ノ先達タリ罪ナクシテ濫刑ヲニ子キツトメアリ

命

キ

ニハ
モテ

テ重科ニ處セハ法ノタメ身命ヲ惜ヘカラス小僧カハリテ
罪ヲウクヘシモテ師範ノトカヲツクハントオモフ。浄土ノ教
ヲモラント思フマクノミ死罪々々敬白 取詮

十一月十三日專修念佛沙門圓證

前大僧正御房

上人誓文ニヲヨヒ禪閣會通ヲマウケタミヒケシハ衆徒ノ

訴詔ト、マリニケリ

第四段

其後與禮寺ノ鬱陶猶ヤマス同二年九月ニ蜂起ヲナ
シ白疏ヲサ、ク彼狀ノコトクハ上人ナラヒニ弟子權大
納言公繼卿ヲ重科ニ處セラルヘキヨシ訴申コレニツキテ

福

同十二月廿九日宣旨ヲ下サレテ云項年源空上人

都鄙ニアマ子ク念佛ヲス、ム道俗オホク教化ニオモムク而

今彼門弟ノ中ニ邪執ノ輩名ヲ專修ニカルヲモキテ各ヲ

破戒ニカヘリミス是偏門弟ノ淺智ヨリオコリテカヘリテ

源空カ本懷ニソムク偏執ヲ禁遏ノ制ニ守トイヘトモ刑

罰ヲ誘諭ノ輩ニクハフルコトナカレト 云取詮

君臣ノ歸依アサカラサリシカハタ、門徒ノ邪說ヲ制シテ

トカラ上人ニカケラレサリケリ

第三十一卷

第一段

專修念佛ノ事南都北嶺ノ鬱陶ニツキテ上人ノへ申サ

ル、ム子ノノ謂アル歟ノヨシヲツカ謳歌レ衆徒ノイキトホリモ次
第二ニユルクナリシカハ上人惣シテハ生死シヤクヲイトヒ佛道ニ入
ヘキイハレ別シテハ無智ノ道俗界界女ノ念佛スルニヨリテ
諸宗ノサマタケトナルヘカラサルム子聖覺法印ニ筆ヲトラシ
メ旨趣ヲノヘラシケル狀云ツシ流浪三界ノヲチイツレノサ
カヒニオモムキテカ釋尊ノ出世ニアハサリシ輪廻四生ノア
ヒタニイツレノ生ヲウケテカ如來ノ說法ヲキカサリシ華嚴
開講ノムシロニモマシハラス般若演說ノ座ニモツラナラス
鷲峯說法ノニハニモノソマス鶴林涅槃ノミキリニモイタラ
スワシ舍衛ノ三億ノ家ニヤトリケシラス地獄八熱ノツ
コニヤスミケンハツヘシハツヘシカナシムヘシカナシムヘシマサニ

一眼ノ

イマ多生曠劫ヲヘテモムマシカタキ人衆ニムシテ無量劫
ヲオクリテモアヒカタキ佛教ニアヘリ釋尊ノ在世ニアハサル
事ハカナシミナリトイヘトモ教法流布ノ世ニアフ事ヲ得タ
ルハコシヨロコヒナリタトヘ公目シ井タルカメノラキ木ノアナニ
アヘルカコトシワカ朝ニ佛法ノ流布せし事モ欽明天皇
アメノシタラシロシメシテ十二年ミツノエサルノトシ冬十月
十三日ハシメテ佛法ヲタリ給ヒシヨリサキニハ如來ノ
教法モ流布せサリシカハ菩提ノ覺路イマタキカスコ、ニワ
シライカナル宿縁ニコタヘイカナル善業ニヨリテカ佛法流
布ノ時ニムシテ生死解脫ノミチヲキク事ヲエタルシカルヲ
イマアヒカタクシテアフ事ヲ得タリイタツラニアカシクラシテヤ

或ハ千里
雲ニハセテ
山ノカセキ
ヲトリテキ
ヲオクリ

昨

ミナンコソカナシケシ或ハ金谷ノ花ヲモテアソヒテ遅々々
ル春ノ日ヲムナンクハラシ或ハ南樓三月ヲアサケリテ漫々
タル秋ノ夜ヲイタツラニアカス。或ハ萬里ノナミニウカヒテウ
ミノイロクツヲトリテ日ヲカサ子或ハ嚴寒ニコホリヲシノキテ
世路ヲワタリ或ハ炎天ニアセヲノコヒテ刹養ヲモトメ或ハ
妻子眷屬ニ纏ハシテ恩愛ノキツナキリカタシ或ハ執敵怨
類ニアヒテ瞋恚ノホムラヤム事ナシ惣シテカクノコトクシテ
晝夜朝暮行住坐卧時トシテヤム事ナシタハホシキニニ
アクマテ三途八難ノ業ヲカサヌシカシハアル文ニ六一人一
日中八億四千念々々中所作皆是三途業トイヘリ
カクノコトクシテ作日モイタツラニクシヌ今日モ又ムナシク

常ニ
常ニ

アケヌイマイクタヒカクラレイクタヒカアカサントスルソシアレ
タニヒラクル榮花ハユフヘノ風ニキリヤスクユフヘニムスフ命
露ハアシタノ日ニキエヤスレコシラシラスシテサカエン事ヲオモ
ヒコレヲサトラスシテアラシ事ヲオモフシカルアヒタ無常ノ風
ヒトタヒフキテ有爲ノツユナカクキエヌシハコレヲ曠野ニステ
コレヲトヲキ山ニヲクルカハ子ハツ井ニコケノシタニウツモレタマ
シヒハヒトリタヒノソラニマヨフ妻子眷屬ハ家ニアレトモカ
ナハス七珍萬寶ハクラニミテトモ益モナシタハ身ニシタカ
フモノハ後悔ノ淚也ツ井ニ閻魔ノ廳ニイタリヌレハツミノ淺
深ヲサタメ業ノ輕重ヲカンカヘラル法王罪人ニトヒテイハ
クナニ千佛法流布ノ世ニムシテナンソ修行セスレテイタツ

トモ

ラニ歸リキタルヤソノ時ニハワレライカ、コタエントスルスミハ
 カニ出要ヲモトメテハトシテ歸ル事ナカレソモソモ一代諸
 教ノヲ千顯宗密宗大乘小乘權教實教論家釋家部
 八宗ニワカレ義萬差ニツラナリテ或ハ萬法皆空ノ宗ヲト
 キ或ハ諸法實相ノ心ヲアカレ或ハ五性各別ノ義ヲタテ
 或ハ悉有佛性ノ理ヲ談シ宗々ニ究竟至極ノ義ヲアラ
 ソヒ各々ニ甚深正義ノ宗ヲ論スミナ己經論ノ實語也
 如來ノ金言也或ハ機ヲト、ノヘテコレヲトキ或ハ時ヲカ、
 ミテコレヲヲレヘ給ヘリイツシカアサクイツレカフカキトモニ是
 非ヲワキニヘカタレカレモ教コレモ教タカヒニ偏執ヲイタク事
 ナカレ説ノコトク修行セハミナコトコトク生死ヲ過度スヘ

レ法ノコトク修行セハトモニオナレク菩提ヲ證得スヘレ修
 世スレテイタツラニ是非ヲ論スタトヘハ目レ井タル人ノイロ
 ノ淺深ヲ論シミ、レ井タル人ノコエノ好惡ヲイハンカコトシ
 タ、スヘカラク修行スヘレイツレモ生死解脫ノミチナリレ
 カルニイマカレヲ學スル人ハコレヲソ子ミコレヲ誦スル人ハカ
 レヲソシル愚鈍ノモノコレカタメニマトヒヤスク淺才ノ身コ
 シカタメニワキニヘカタレタマタマ一法ニオモムキテ功ヲツマン
 トスレハスナハ千諸宗ノアラソヒカタヒニキタルヒロク諸教ニ
 ワタリテ義ヲ談セントオモヘハ一期ノイノ千クシヤスレ蓬菜
 方丈瀛州トイフナルニノ山ニコツ不死ノクスリハアリトキチ
 カレヲ服シテレインノ千ヲノヘテ漸々ニ習ハヤト思ヘトモタツ

コ
イ
カ
ノ

又ヘキカタモオホエスモロコシニ秦皇漢武トキコエシ御門コ
レヲキハテタツ子ニツクハシタリシカトモ童男氷女ヲ子ノウチ
ニシテ年月ヲヲクリキ彭祖カ七百歳ノ法ムカシカタリニテ
イノ時ニツクヘカタシ曇鸞法師ト申シ人コソ佛法ノソコ
ヲキワセタリシ人ノイノ千ハアシタラ期シカタシトテ佛法ヲナラ
ハンカタメニ長生ノ仙ノ法ヲハツタヘ給ヒケレ時ニ菩提流
支ト申三藏ニシマシキ曇鸞カノ三藏ノ御マヘニウテ、
申給ヤウハ佛法ノ中長生不死ノ法コノ土ノ仙經ニス
キタルアリヤトトヒ給ヒケレハ三藏地ニツハキハキテノ給ハク
コノ方ニハイツクノ處ニカ長生ノ法アラシトトヒ長年ヲ得
テレハラクシナストモツ井ニ三有ニ輪廻ストノ給テスナハ千觀

無量壽經ヲサツケテ大仙ノ法也コレニヨリテ修行スレハ
サラニ生死ヲ解脱スヘシトノ給キ曇鸞コレヲツタヘテ仙經
ヲタキニチニ火ニヤキテコレヲスツ觀無量壽經ニヨリテ淨
土ノ行ヲレルシ給キツノ、千曇鸞道綽善導懷感少康
等ニイタルマテコノナカレヲツタヘ給ヘリソノミチヲオモヒテ
イノチヲノヘテ大仙ノ法ヲトラントオモフニ又道綽禪師ノ
安樂集ニモ聖道淨土ノ二門ヲタテ給フハコノ心ナリソノ
聖道門トイフハ穢土ニシテ煩惱ヲ断シテ菩提ニイタル
也淨土門トイフハ淨土ニムマレテカレコニシテ煩惱ヲ断
シテ菩提ニイタルセイニコノ淨土宗ニツイテコレヲイハ
又觀經ニアカストコロノ業因一ニアラス三福九品十三

敬

定善ノ行シテナニワカシテソノ業マチマニツラナレリニ
ツ定善十三觀トシテハ日想水想地想寶樹寶地寶
樓花座像想真身觀音勢至普觀雜觀コレ也ツキニ觀
善九品トイフハ一ニ孝養父母奉事師長慈心不致修
十善業二ニ受持三歸具足衆戒不犯威儀三ニ發
菩提心深信因果讀誦大乘勸進行者也九品ハカノ
三福ノ業ヲ開シテソノ業因ニアツツフサニハ觀經ニミエタリ
惣シテカシライヘハ定散二善ノ中ニモシタル往生ノ行ハ
アルヘカラスコレニヨリテ或ハイツレニモアシタ、有縁ノ行ニ
オモムキテ切ヲカサ子テ心ニヒカン法ニヨリテ行ヲハケマハミ
ナコトコトク往生ヲトクヘシサラニラタカヒヲナス事ナカレ

マレハラク自法ニツキテコレライハ、マサニニ定善ノ觀門ハ
カスカニツラナリテ十三アリ散善ノ業因ハマチマニワカシ
テ九品アリソノ定善ノ門ニイラントスレハスナハ千意馬ア
シテ六塵ノ境ニハスカノ散善ノ門ニソマントスレハ又心
猿アソンテ十惡ノエタニウツルカレラレツメントスレトモ得ス
コレヲト、メントスレトモアタハスイマ下三品ノ業因ヲミレハ
十惡五逆ノ衆生臨終ニ善知識ニアヒテ一聲十聲阿
彌陀佛ノ名号ヲトナヘテ往生ストトカレタリコレナンソワ
シラカ分ニアラサラニヤカノ釋ノ雄俊トイヒシ人ハ七度還
俗ノ惡人ナリイノチヲハリテノ十獄率閻魔ノ廳庭ニ井テ
ユキテ南閻浮提第一ノ惡人七度還俗ノ雄俊井テニ

リテハンヘリト申ケルハ雄俊申テイハクワシ在生ノ時觀
無量壽經ヲミシカハ五逆ノ罪人阿彌陀ホトケノ名號
ヲトナヘテ極樂ニ往生ストマサシクトカシタリワシ七度還
俗ストイヘトモイマタ五逆ヲハツクラス善報スナシトイヘ
トモ念佛十聲ニスキタリ雄俊モシ地獄ニオチハ三世ノ諸
佛妾語ノツミニオチ給ヘシト高聲ニサケヒシカハ法王ハ理
ニオシテタマノカフリヲカタフケテコレヲカミ彌陀ハ千カヒニ
ヨリテ金蓮ニノセテムカヘ給キイハンヤ七度還俗ニラヨハサ
ランヲイハンヤ一形念佛センヲヤ男女貴賤行住坐卧
ヲエラハス時處諸緣ヲ論セスコレヲ修スルニカタカラス乃
至臨終ニ往生ヲ願求スルニソノタヨリヲエタリト楞嚴ノ

先德ノカキヲキ給ヘルマコトナルカナヤ又善導和尚コノ
觀經ヲ釋シテノ給ハク娑婆ノ化主ソノ請ニヨルカユヘニ
ヒロク淨土ノ要門ヲヒラキ安樂ノ能人別意ノ弘願ヲア
ラハスソノ要門トイフハスナハ千コノ觀經ノ定散ニ門コシ
也定ハスナハ千オモヒヲヤメテ心ヲコラシ散ハスナハ千惡
ヲ廢シテ善ヲ修スコノニ行ヲメクラシテ往生ヲモトメ子カ
フ也弘願トイフハ大經ニトクカコトシ一切善惡ノ凡夫
ノムニル、コトヲウルモノミナ阿彌陀佛ノ大願業力ニ乘
シテ増上縁トセストイフコトナシ又ホトケノ密意弘深ニシ
テ教文サトリカタシ三賢十聖モハカリテウカ、フトコロアラ
スイハンヤワシ信外ノ輕毛也サラニ旨趣ヲシラニヤアノイ

テオモンミレハ釋迦ハコノ方ニシテ發遣シ彌陀ハカノクニヨ
 リ來迎シ給フコ、ニハリカ、コニヨハフアニサラサルヘケンヤト
 イヘリシカレハ定善散善弘願ノ三門ヲタテ給ヘリソノ弘
 願トイフハ大經ニ云設我得佛十方衆生至心信樂欲
 生我國乃至十念若不生者不取正覺唯除五逆誹
 謗正法トイヘリ善道釋シテノ給ハク若我成佛十方衆
 生稱我名號下至十聲若不生者不取正覺彼佛今
 現在世成佛當知本誓重願不虛衆生稱念必得往
 生云觀經ノ定散兩門ヲトキヲハリテ佛告阿難沙好持
 是語持是語者即是持無量壽佛名云コレスナハカノ
 弘願ノコ、ロナリマオナシキ經ノ真身觀ニハ彌陀身色

如金山相好光明照十方唯有念佛蒙光攝當知本
 願最爲強云又コレサキノ弘願ノユヘナリ阿彌陀經ニイ
 ハク不可以少善根福德因緣得生彼國若善男子善
 女人聞說阿彌陀佛執持名號若一日若二日乃至
 七日一心不亂其人臨命終時心不顛倒即得往生
云ツキノ文ニ六方ヲノヲノ恒河沙ノ佛云シテ廣長
 ノ舌相ヲイタシテア、子ク三千大千世界ニオホヒテ誠實
 ノ事也信セヨト證誠シ給ヘリコレ又サキノ弘願ノユヘ也
 又般舟三昧經ニイハク跋陀和菩薩阿彌陀ニトヒテイ
 ハタイカ九法ヲ行シテカカノク、ムマルヘキト阿彌陀ホト
 ケノ給ハクワカクニ、來生セントオモハンモノハツ子ニ御名ヲ

念シテヤムコトナカレカクノコトクニテワカクニ、來生スルコトヲトノ給ヘリコト又弘願ハム子ヲホトケ身ツカラノ給ヘリ又五臺山ノ大聖竹林寺ノ記ニイハク法照禪師清涼山ニホリテ大聖竹林寺ニイタルコトニ一人ノ童子アリ一人ヲハ善射トイヒ一人ヲハ難陀トイフコト二人ノ童子法照禪師ヲミチヒキテ寺ノウチニイシテ漸々ニ講堂ニイタリテミシハ普賢菩薩無數ノ眷屬ニ圍繞セラレテ坐レ給ヘリ文殊師利ハ一萬ノ菩薩ニ圍繞セラレテ坐シ給ヘリ法照禮レテトヒタテマツリテ云末法ノ凡夫ハイツシノ法ヲカ儀スヘキ文殊答テノ給ハクナンチステニ念佛セヨイマサレシコレ時也ト法照又トヒテ申サクマサニイツシヲカ念

スヘキト文殊又ノタニハクコノ世界ヲスキテ西方ニ阿彌陀佛ニシマスカノホトケマサニ願フカクマシマスナンチマサニ念スヘシト大聖文殊法照禪師ニモノアタリノ給ヒシ事也スヘテヒロクコレヲイヘハ諸教ニアマ子ク修セシメタル法門也ツフサニアクルニイトマアラスシカルヲココロ念佛ノヨニヒロリタルニヨリテ佛法ウセナントスト諸宗ノ學者難破ヲイタスニヨリテ人オホク念佛ノ行ヲ廢ストキユイニタ心エスハンヘリ佛法ハコレ萬年也ウレナントオモフトモ佛法擁護ノ諸天善神マモリ給ユヘ二人ノカニテハカナフヘカラスカノ守屋ノ大臣ナ佛法ヲ破滅セントセシカトモ法命イマタツキスシテイマニツタルカコトシノハニヤ無智ノ道俗在

家ノ男女ノカニテ念佛ヲ行スルニヨリテ法相三論モ隱
没シ天台華嚴モ廢スル事ナシカ分ルヘキ念佛ヲ行セスシ
テ井タラハコノトモカラハ一宗ヲモ真隆スヘキカハタ、イタツ
ラニ念佛ノ業ヲ廢シタルハカリニテニタクツシ諸宗ノヲキロ
ヲモサクルヘカラスシカシハコシオホキナル損ニアラスヤ諸宗ノ
フカキナカレヲクム南都北京ノ學者兩部ノ大法ヲツタ
ヘタル本寺本山ノ禪徒百千萬ノ念佛世ニヒロマリタリ
トモ本宗ヲアラタムヘキニアラス又佛法ヲセナントストテ念
佛ヲ廢セハ念佛ハコシ佛法ニアラスヤタトヘハ虎狼ノ害
ヲニケテ師子ニムカヒテハシランカコトシ餘行ヲ謗シ念佛
ヲ謗センオナシクコシ逆罪也トラオホカミニ害セラレン師子

經

ニ害セラレントモニカナラス死スヘシコレヲモ謗スヘカラスカ
レヲモノ子ムヘカラストモニミナ佛法也タカヒニ偏執スルコ
トナカレ像法決疑ニイハク三學ノ行人タカヒニ毀謗シテ
地獄ニイルコトトキヤノコトシトイヘリ又大論ニイハク自法
ヲ愛染スルユヘニ他人ノ法ヲ毀訾スレハ持戒ノ行人ナ
リトイヘトモ地獄ノ苦ヲマヌカレストイヘリ又善導和尚ノ
ノ給ハク

世尊說法時將了
五濁增時多疑謗
見有修行起瞋毒
如此生盲闡提輩

慇懃付屬彌陀各
道俗相嫌不用聞
方便破壞競生惡
毀滅頓教永沈淪

超過大地微塵劫

未可得離三途身

トイヘリ念佛ヲ修セシモノハ餘行ヲソレルヘカラスソレラハ
スナハ千彌陀ノ悲願ニソムクヘキユヘ也餘行ヲ修セシ者
モ念佛ヲソレルヘカラス又諸佛ノ本誓ニタカフカユヘナリ
シカルヲイマ真言止觀ノ窓ノミヘニ念佛ノ行ヲソレル一
向專念ノ床ノウヘニ諸餘ノ行ヲソレルトモニ我々偏執
ノ心ヲモテ義理ヲタテタカヒニヲノノ是非ノオモヒニ住シ
テ會尺ヲナスアニコシ正義ニカナハシヤミナトモニ佛意ニソム
ケリツキニ又難者ノイハク今來ノ念佛者私ノ義ヲタテ、
惡業ヲオソル、ハ彌陀ノ本願ヲ信セサル也數遍ヲカサヌ
ルハ一念ノ往生ヲウタカフ也行業ヲイヘハ一念十念ニ

タリヌヘシカルカユヘニ數遍ヲツムヘカラス惡業ヲイヘハ四
重五逆ナラムムル、ユヘニ諸惡ヲハ、カルヘカラストイヘリコ
ノ義ハタクシカルヘカラス釋尊ノ說法ニモミエス善導ノ尺
ニモアラスモシカクノコトク存セシモノハ愍レテハ諸佛ノ御
心ニタカフヘシ別シテハ彌陀ノ本願ニカナフヘカラスソノ五
逆十惡ノ衆生ノ一念十念ニヨリテカノクニ、往生スト
イフハコシ觀經ノアキラカ九文也タ、シ五逆ヲツクリテ十
念ヲトナヘヨ十惡ヲカシテ一念ヲ申セトス、ムルニハアラ
スソシ十重ヲタモキテ十念ヲトナヘヨ四十八輕ヲニモリテ
四十八願ヲタノムハ心ニフカクコヒ子カフトコロナリオホヨ
ソイツレノ行ヲモハラニストモ心ニ戒行ヲタモキテ淨囊ヲモ

ルカコトクニシ身ノ威儀ニ油鉢ヲタフケスハ行トシテ成
 就セストイフ事ナリ。願トシテ聞滿セストイフコトナレシカル
 ヲワレラ或ハ四重ヲカシアルヒ六十惡ヲ行スカシモヲカシ
 コレモ行ス一人トシテマコトノ戒行ヲ具シタル者ハナシ諸
 惡莫作諸善奉行ハ三世ノ諸佛ノ通戒也善ヲ修スル
 モノハ善趣ノ報ヲエ惡ヲ行スル者ハ惡道ノ果ヲ感ストイ
 フコノ因果ノ道理ヲキケトモキカサルカコトシハシメテイフニ
 アタハスレカレトモ分ニシタカヒテ惡業ヲトメヨ縁ニフシテ
 念佛ヲ行シ往生ヲ期スヘシ惡人ヲステラシスハ善人ナン
 ノキラハンツミヲオツルハ本願ヲタカフトコノ宗ニマタク
 存セサルトコロ也次一念十念ニヨリテカノクニ、往生ス

一声

トイフハ釋尊ノ金言也觀經ノアキラカナル文ナリ善道
 和尚ノ尺ニイハク下至十聲等定得往生乃至一念無
 有疑心故名深心トイヘリ又イハク行住坐卧不問時
 節久近念々不捨者是名正定之業順彼佛願故ト
 イヘリレカレハ信ヲ一念ニムルトレリテ行ヲ一形ニハケ
 ムヘシトス、ムル也彌陀ノ本願ヲ信シテ念佛ノ功ツモリ
 運心トシヒサシクハナンソ願カヲ信セストイフヘキヤスヘテ
 薄地ノ九夫彌陀ノ淨土ニムマレシ事他カニアラスハミナ
 道タエタルヘキ事也オホヨソ十方世界ノ諸佛善逝穢土
 ノ衆生ヲ引導セシメスニ穢土ニシテ正覺ヲトナヘ淨土
 ニシテ正覺ヲナリテシカモ穢土ノ衆生ヲ引導セントイフ

淨土ノ衆
ニシテ化
カ

又淨土ニ
シテ正覺
ヲトナフ

願ヲタテ給ヘリソノ穢土ニシテ正覺ヲトナフレハ隨類應
同ノ相ヲシメスカユヘニイノチカハラスシテトク涅槃ニイリ
テハ報佛報土ニシテ地上ノ大菩薩ノ所居也未斷惑
ノ九夫ハタ、千ニムマル、事アタハスシカルライニ淨土ス症
嚴シ佛道ヲ修行スルハ九位ハモト造惡不善ノトモカラ
也輪轉キハマリナカラシテ引導シ破戒淺智ノヤカラノ出
離ノ期ナカラシテアハレニシカタメ也モシソノ三賢ヲ證シ十
地ヲキハメタル又行ノ聖人深位ノ菩薩六度萬行ヲ具
足シ諸波羅密ヲ修行シテムマル、トイハ、コレ大慈ノ本
意ニアラスコノ修因感果ノコトハリヲ大慈大悲ノ御心ノ
ウチニ思惟シテ年序ソラニツモリテ星霜五劫ニヲヨヘリシ

西

一切

カルニ善巧方便ヲメクラシテ思惟シ給ヘリシカモワレ別願
ヲモテ淨土ニ居シテ薄地底下ノ衆生ヲ引導スヘシソノ
衆生ノ業力ニヨリテムマル、トイハ、カタカルヘシワレスヘカ
ラクハ衆生ノタメニ永劫ノ修行ヲオクリ僧祇ノ苦行ヲメ
クラシテ萬行萬善ノ果徳圓滿シ自覺々他ノ覺行窮
滿シテソノ成就セントコロノ萬徳無漏ノ功德ヲモテワカ
名号トシテ衆生ニトナヘシメシ衆生モシコレニツイテ信ヲ
イタシテ稱念セハワカ願ニコタヘテムル、事ヲタヘシ名號
ヲトナヘハムマルヘキ別願ヲオコシテソノ願成就セハ佛ニナル
ヘキカユヘナリコノ願モシ滿スセスハ永劫ヲフトモワシ正
覺ヲトラシタ、シ未來惡世ノ衆生憍慢懈怠ニシテコレ

佛傳卷七

ニツイテ信ヲオコス事カタカルヘシ一佛二佛ノトキ給ハン
ニオノフクハウタカフ心ヲナサン事ヲ子カハクハワレ十方ノ諸
佛ニコトコトクヲ願ヲ稱揚セラレタテツラントチカヒテ第
十七ノ願ニ設我得佛十方世界無量諸佛不悉咨嗟
稱我名者不取正覺トタテ給ヒテツキニ第十八ノ願ノ
乃至十念若不生者不取正覺トタテ給ヘリソノム子無
量ノ諸佛ニ稱揚セラレタテマツラントタテ給ヘリ願成就ス
生ニヘニ六方ニヲノヲノ恒河沙ノホトケマシマシテ廣長ノ
舌相ヲ出シテアマ子ク三千大千世界ニオホヒテミナヲナ
シクコノ事ヲニコトナリト證誠シ給ヘリ善導コレヲ尺シテ
ノ給ハクモレコノ證ニヨリテムマル、事ヲ得スハ六方ノ諸

佛ノノヘ給ヘル舌口ヨリイテヲハリテノキツ井ニロニカヘリ
イラスシテ自然ニヤフレミタレントノ給ヘリコレヲ信セサラン
モノハスナハチ十方恒沙ノ諸佛ノ御シタヲヤフル也ヨクヨ
ク信スヘシ一佛二佛ノ御舌ヲヤフランタニモアリイカニイハ
ムヤ十方恒沙ノ諸佛ヲヤ大地微塵劫ヲ超過ストモイ
マタ三途ノ身ヲハ九ヘカラストノ給ヘリ彌陀ノ四十八願
トイフハ無三惡趣不更惡趣乃至念佛往生等ノ願コ
レサリスヘテ四十八願ノナカニイツレノ願カ一トシテ成就
シ給ハヌ願アルヘキ願コトニ不取正覺トチカヒアイニステニ
正覺ヲナリ給ヘル故也然ヲ無三惡趣ノ願ヲ信セスシテ
カノ國ニ惡道アリトイフ者ハナシ不更惡趣ノ願ヲ信セス

レテカノクニノ衆生イノキヲハリテノキ又惡道ニカヘルトイ
フ者ハナシ悉皆金色ノ願ヲ信セステカノクニノ衆生ハ
金色ナルモアリ白色ナルモアリトイフ者ハナシ無有好醜
ノ願ヲ信セステカノクニノ衆生ハカクヨキモアリウロキモ
アリトイフ者ハナシ乃至天眼天耳光明壽命ヲヨヒ得
三法忍ノ願ニイタルマテコレニツイテウタカヒヲナス者ハイ
マタハンヘラスタ、第十八ノ願ニツイテ念佛往生ノ願ヒト
ツヲ信セサル也コノ願ヲウタカハ、餘ノ願ヲモ信スヘカラス
餘ノ願ヲ信セハコノ一願ヲウタカフベケンヤ法藏比丘イマ
タホトケニナリ給ハストイハ、コレ謗法ニナリナンカシモシ又
ナリ給ヘリトイハ、イカ、コノ願ヲウタカフヘキヤ四十八願

虚

ノ彌陀善逝ハ正覺ヲ十劫ニトナヘ給ヘリ六方恒沙ノ
諸佛如來ハ舌相ヲ三千世界ニノヘ給ヘリタシカコレヲ信
セサルヘキヤ善導コノ信ヲ釋シテノ給ハク化佛報佛若一
若多乃至十方ニ遍シテヒカリヲカ、ヤカシタヲハキテア
マ子ク十方ニオホヒテコノ事康安ナリトノ給ハニモ畢竟
レテ一念疑殆ノ心ヲオコサシトノ給ヘリシカルヲイニ行者
々千異學異見ノタメニタヤスクコレヲヤフラルイカニイハンヤ
報佛化佛ノノ給ハンヲヤソモソモコノ行ヲステハイツシノヲコ
ナヒニカオモムキ給ヘキ智慧ナケレハ聖教ヲヒラクニナククラ
シ財寶ナケレハ布施ヲ行スルニチカラナシムカシ波羅奈國
ニ太子アリキ大施太子ト申キ貧乏ヲアハレミテクラヲヒラ

手テモロモロノタカラヲ出シテアタヘ給ニタカラハツクシトモ
 マツシキ者ハツクヘカラスコ、三太子ウミノナカニ如意寶珠
 アリトキク海ニユキテモトメテマツシキニタカラヲアタヘントチ
 カヒテ龍宮ニユキ給ニ龍王オトロキアヤシミテオホロケノ人ニ
 ハアラストイヒテ身ツカラムカヒテタカラノユカニスエタテマツリハ
 ルカニキタリ給ヘル心サレ何事ヲモトメ給ソトトヘハ太子ノ
 給ハク闇浮提ノ人ニツシクテクルシム事オホシ玉ノモト、リ
 ノナカニ寶珠ヲコハシカタメニキタル也トノ給ヘハ玉ノイハクシ
 カラハ七日コ、ニト、マリテワカ供養ヲウケ給ヘソノチタカ
 ラヲタテマツラントイフ太子七日ヲヘテタニヲエ給又龍神ソ
 コヨリヲクリタテマツルスナハ千本國ノキシニイタリヌコ、ニモロ

正ロノ龍神ナケイテイハクコノタニハ海ヤノタカラ也ナヲト
 リ返シテノヨカルヘキトサタム海神人ニナリテ太子ノ御マヘ
 ニホタリテイハク君世ニマシナル玉ヲエ給ヘリトクワシニミ世
 給ヘトイフ太子コレヲミセ給ニウハヒトリテウミヘイリ又太
 子ナケキテチカヒテイハクナンチモシタマヲ返サスシハウミヲク
 ミホサントイフ海神イテ、ウラヒテイハクナンチハモトモヲロカナ
 ル人カナソラノ日ヲハオトシモシテニハヤキセヲハト、メモシテ
 シウミノミツヲハツクスヘカラストイフ太子ノ給ハク恩愛ノタ
 ヘカタキヲモナヲト、メントオモフ生死ノツクシカタキヲモナヲ
 ツクシサト思フイハニウミノホオホシイフトモカキリアリモ
 ヒコノ世ニクミツクサスハ世トヲヘテニカナラスクミツクサシキ

カヒテ具ノカラヲトリテタミノ水ヲクム千カヒノ心ニコト九カ
 故ニモロモロノ天人コトコトタリテアノハコロモノソテニ
 ツ、ミテ鐵圍山ノホカニクミヲク太子一度二度カイノカラ
 ヲモテクミ給ニ海水十分カ八分ハラセヌ龍王サハキアハテ
 ヲワカスミカムナシクナリナントストワヒテタマヲ返レタテマツル
 太子コレヲトリテミヤコニ歸テモロモロノタカラヲフラシテ闍浮
 提ノヲ千ニタカラヲフラサ、ルトコロナシクルシキラシノキテ退
 セサリシカハコレヲ精進波羅密トイフムカシノ太子ハ萬里
 ノナミヲシノキテ龍宮ノ如意寶珠ヲ得給ヘリイマノワシラ
 ハ二河ノ水火ヲウケテ彌陀本願ノ寶珠ヲ得タリカレハ
 龍神ノク井シカタメニウハ、シコレハ異學異見ノタメニウハ

ハルカシハ貝ノカラヲモテ大海ヲクミシカハ六欲四禪ノ諸
 天來テオナシククミキコレハ信ノ手ヲモテ疑謗ノ難ヲクハ
 六方恒沙ノ諸佛キタリテクミ給ヘシカシハ大海ノ水ヲ
 ウヤクツキシカハ龍宮ノイラカアラハレテ如意寶珠ヲ返レ
 トリキコレハ疑難ノナミコトコトクツキナハ謗家ノイラカアラ
 ハシテ本願ノ寶珠ヲ返レトルヘシカレハ返レトリテ闍浮提
 ニシテ貧窮ノタミヲアハレシコレハ返レトリテ極樂ニムシテ
 薄地ノトモカラヲミキヒクヘシ子カハクハモロモロノ行者彌
 陀本願ノ寶珠ヲイニタウハヒトラレサラン者ハフカク信心ノ
 ソコニオサメヨモシスナワチトシ、タランモノハスミヤカニ深信
 ノ手ヲモテ疑謗ノナミヲクメタカラニステ、手ヲムナシクシテ

佛モ正
覺ニ
給スハ

歸ヘル事ナカレイカナル彌陀カ十念ノ悲願ヲオコシテ十
方ノ衆生ヲ攝取シ給フイハフルワレラカ六字ノ名号ヲト
ナヘテ三輩ノ往生ヲトケサラニ永劫ノ修行ハコレタレカヌメソ
未來ノ衆生ニユツリ給フ超世ノ悲願ハ又ナンノ新ノ心
サレヲ未法ノワレラニヲクリ給フワレラモレ往生ヲトクヘカ
ラスハホトケアニ正覺ヲナリ給ヘシヤウレラ又往生トケレ
ヤワシラカ往生ハホトケノ正覺ニヨリホトケノ正覺ハワレラ
カ往生ニヨル若不生者ノ千カヒコレヲモテシリ不取正覺
ノコトハカキリアルヲヤ云

第三十三卷

第一段

鹿

メケル

カクテ南都北嶺ノ訥詔次第ニト、マリ專修念佛ノ興
行無爲ニスクルトコロニ翌年建永元年十二月九日
後鳥羽院熊野山ノ臨幸アリキソノコロ上人ノ門徒住
蓮安樂等ノトモカラ東山庶ノ谷ニレテ別時念佛ヲハメ
六時禮讚ヲツトムサタニルフシ柏子ナク各哀欲ノ音曲
ヲナスサマメツラレクダウトカリケレハ聽衆オホクアツマリテ
發心スル人モアマタキコエシナカニ御所ノ御留守ノ女房
出家ノ事アリケル程ニ還幸ノノチアレサニ諺シ申人ヤア
リテニオホキニ逆鱗アリテ翌年建永二年二月九日住
蓮安樂ヲ庭上ニメサシテ果斗セラルトキ安樂見有修
行起眞毒方便破壊競生怨如此生旨闡提輩毀滅

超過大地
微塵劫末
三余身ノ
文ヲ誦シ
ケルニ并

時キラ
ケル

頓教求沈淪鱗イヨイヨサカリニテ官人秀能オホセテ
六條川原ニシテ安樂ヲ死罪ニラコナハル、時奉行ノ官
人ニイトミラコヒトリ日没ノ禮讚ノ行スルニ紫雲ソラニ
三千ケレハ諸人アヤシミヲナストコロニ安樂申ケルハ念佛數
百遍ノノ千十念ヲ唱ヘンヲマキテキルヘシ合掌ミタスレ
テ右ニフサハ本意ヲトケヌト知ヘシトイヒテ高聲念佛數
百遍ノノ千十念ミケルニイヒツルニタカハス合掌ミタスレ
テ右ニフシニケリ見聞ノ諸人隨喜ノ淚ヲナカシ念佛ニ歸
スル人オホカリケリ

第二段

罪惡生死ノタクヒ愚癡暗鈍ノトモカラシカシナカラ上人

ノ化導ニヨリテヒトヘニ彌陀ノ本願ヲマノムトコロニ天魔
ヤキホヒケン安樂死刑ニヲヨヒテノ千モ逆鱗ナラヤマスレテ
カサ子テ第子ノトカラ師近ニヲヨホサレ慶縁ヲメシ俗各ヲ
クタサレテ遠流ノ科ニサタメラル藤井ノ元彦云カノ宣下
狀ニ云ク太政官符 土左國司

流人藤井ノ元彦

使左衛門ノ府生清原ノ武次徒二人

門部二人 徒各一人

右流人元彦ヲ領送ノタメニクタンラノ人ヲサシテ發遣ク
タシノコトシ國ヨロシク兼知シテ例ニヨリテコシヲコナヘ
路次ノ國ニタヨロシク食潦具馬參延ヲタマフヘシ符到奉

和 濟

行

建永二年二月廿八日右大史中原朝臣判

左少弁藤原朝臣

追捕ノ檢非遠使ハ宗府生久經領送使ハ左衛門ノ
府生武次ナリ上人ノ勸化ヲアフク貴賤往生ノ索懷
ヲノソム道俗ナケキカナルム事タトヘヨトルニモノナシ

第三段

門第等ナケキアヘル十カニ法蓮房申サレケルハ住蓮安樂
ハステニ罪科セラレヌ上人ノ流罪ハタ、一向專修興行ノ
故ト云レカルニ老邁ノ御身遠遠ノ海波ニオモムキニシサ
ハ御命安全ナラレ我等恩願ヲ拜シ嚴旨ヲウケ給コトア

カ

ルハラス又師近流刑ノ罪ニラレタマハ、ノコリト、マル門第
面目アラニヤカツハ勅命ナリ一向專修ノ興行ヲト、ムヘ
キヨシヲ奏シタマヒテ内々御化導アルヘクヤ侍フント申サ
シケルニ一座ノ門第オホクコノ義ニ同シケルニ上人ノ給ハ
ク流刑サラニシラミトスヘカラスソノユヘハ齡ステニ八旬ニセ
マリヌタトヒ師弟オナシニヤヨニ住ストモ娑婆ノ離別チカキニ
アルヘシタトヒ山海ヲヘタツトモ淨土ノ再會ナシソウタカハ
ム又イトフトイヘトモ存スルハ人ノ身ナリオシムトイヘトモ死
スルハ人ノイノチナリナシカナラスレモトコロニヨラニヤレカ
ノミナラス念佛ノ興行浴湯ニシテヒサシク邊鄙ニオモムヤ
テ田夫野人ヲス、メニ事年來ノ本意ナリシカレトモ時イ

陽

ノ

タラスシテ素意イニタハタサスイマ事ノ縁ニヨリテ年來ノ本
意ヲトクニ事スコフル朝恩トモイウヘシコノ法ノ弘通ハ人
ハト、メモトストモ法サラニト、ニルヘカラス諸佛濟度ノチ
カヒフカク。眞衆護持ノ約子ニコロナリシカハナシ世間
ノ機嫌ヲハ、カリテ經尺ノ素意ヲカクスヘキヤタ、シイタム
トコロハ源空カ真スル浄土ノ法門ハ濁世未代ノ衆生ノ
決定出離ノ要道ナルカユヘニ常隨守護ノ神祇眞道サタ
メテ無道ノ障難ヲトカメ給ハシカ命アラントモカラ因果ノ
ムナシカラサル事ヲオモヒアハスヘシ因縁ツキスハナシ又今
生ノ再會ナカラシヤトソオホセラシケル、タ一人ノ弟子ニ對
シテ一向專念ノ義ヲノヘ給ニ御弟子西阿彌陀佛椎參

シテカクノコトクノ御義ユメユメアルヘカラスヲノヲノ御返事
ヲ申給ヘカラスト申ケルハ上人ノ給ハク汝經尺ノ文ヲミ
スヤト西阿申サク經尺ノ文ハシカリトイヘトモ世間ノ機
嫌ヲ存ユルハカリナリト上人又ノタマハクワシタトヒ死罪ニ
ヲコナハルトモコノ事イハスハアルヘカラスト至誠ノイロモトモ
切ナリ見タテツル人ミナ涙ヲソオトシケル

第四段

官人小松谷ノ御房ニムカヒテイソキ配所ヘウツリ給ヘキ
ヨシヲ責申ケレハツ井ニミヤコヲイテタマフ月輪殿御餘波
ヲオシミテ法性寺ノ小御堂ニ一夜ト、メタテマツラシケリ
禪定殿下ハ忠仁公十一代ノ後胤累代攝録ノ臣ト

レテ朝家ノ憲政詩奇ノ才^ル轉君コレヲユルシ世コレヲアフ
キタテマツル榮花重職ノ豪家ニアソヒ給トイヘトモヒトヘ
ニ順次往生ノ御ノツミフカ、リケリ御出家ノ後ハ數年
上人ヲ囑シテ出離ノ要道ヲタツ子淨土ノ法門ヲ談シ
タマフ上人ノ頭光ヲアタリ拜見シ給シノ千ハ一向ニ生
身ノ佛ノオモヒヲナシ給キカルヲハカラサルニ勅勘ヲカフリタ
マフヨレヲキコレメスヨリ御ナケキナヲサリナラス去年建永
元年三月七日後ノ京極殿ニハカニカクレサセ給キ御ト
シワツカニ三十八ニソナリ給ケルコレニツキテイヨイヨ今生
ノ事ヲオホシメステ、ヒトスチニ後生菩提ノ御イトナミナ
リ上人ニツ子ニ御對面アリテ生死無常ノコトハリヲモキ

コレメサレ往生淨土ノ御ツトメ功ヲカサ子ツ、聊御心ヲ
モナクサメ給ケルニ上人左遷ノ罪ニアタリ給ヌル事イカナ
ル宿業ニテカ、ルコトヲミキクラントテ勅勘ヲカフリタマヘ
ル上人ハ御歎イトナカリケルニ禪閣ノ御悲アサカラサリケ
リミタテツル人モ心ノヲキトコロナキ程ナリコノ事ヲ申ト
トメサル事イキテ世ニアルカヒナケシトモ御勘氣ノハシメナリ
左右ナク申サンモノノ恐フカシ連々ニ御氣色ヲツカ、ヒ
テ勅免ヲ申ヲコナフヘシトソオホセラレケル

第三十四卷

第一段

三月十六日ニ花洛ヲイテ、夷境ニオモムキ給ニ信濃國

ノ御家人肩張ノ成阿彌陀佛力者ノ棟梁トシテ寂後
ノ御トモナリトテ御輿ヲカクオナシサニシタカヒタテツル
僧六十餘人ナリオホヨソ上人ノ一期ノ威儀ハ馬車輿
ナトニノリ給ハス金剛草履ニテ歩行シ給キシカレトモ老
邁ノウヘ長途タヤスカラサルニヨリテ乘輿アリケルニコソ御
ナコリヲオシミ前後左右ニハシリシタカフ人幾千萬トイフ
事ヲシラス貴賤ノカナシムコエキニタニミ千道俗ノシタウナミ
タ地ヲタルホスカシラライサメ給ケルコトハニハ驛路ハコシ大
聖ノユク所也漢家ニハ一行阿闍梨日城ニハ役優婆塞
詣^ト處ハ又權化ノスム所ナリ震旦ニハ白樂天吾朝ニハ管
兼相ナリ在纏^チ出纏^チミナ火宅ナリ真諦俗諦シカシナカラ

水驛ナリトソオホセラシケルサテ禪定殿下土佐國ニテハ
アリニハルカナル程ナリワカ知行ノ國ナシハトテ讚岐國へ
ソウツシタテニツラシケル御ナコリヤルカタナクオホシメサレケ
ルニヤ禪閣御消息ヲ送ラレケルニ
フリステユクハワカレハシナレトフミワタスヘキコトヲソ思フ
ト侍ケレハ上人御返事

第二段

鳥羽ノミナミノ門ヨリ川舩ニノリテクタリタマフ

第三段

攝津國經ノ嶋ニツキ給ニケリカノヒハ平相國安元ノ

水ノ底ニ
シワムルナ
ト云云

寶曆二一千部ノ法華經ヲ石ノ上ニ書寫シテ漫々タル
波ノ底ニシツム鬱々タル魚鱗ヲスクハンカタメニ村里ノ男
女老少ソノカスオホクアツマリテ上人ニ結縁シタテマツリ
ケリ

第四段

播磨國高砂ノ浦ニツキ給二人ヲホク結縁シケルナカニ七
旬アマリノ老翁六十アマリソノ老女夫婦ナリケルカ申ケル
ハワカ身ハコノ浦ノアマ人ナリオサナクヨリスナトリヲ業トシ
アシタユフヘニイロクツノ命ヲタチテ世ヲワタルハカリコト、ス
モノ、命ヲコロスモノハ地獄ニオチテクルシミタヘカタク侍
ナルニイカ、シテコレヲマヌカレ侍ルヘキタスケサセ給ヘトテ

給

手ヲアハセテナキケリ上人アハレミテ汝カコトク丸モノモ南
無アミタフトトナフシハ佛ノ悲願ニ乗シテ浄土ニ往生スヘ
キム子子シコロニヲシヘ給ケレハ二人トモニ涙ニムセヒツ、ヨ
ロコヒケリ上人ノ仰ヲウケタマハリテ後ハヒルハ浦ニイテ、
手ニスナトリスル事ヤニサリケシトモロニハ名号ヲトナヘヨル
ハ家ニカヘリテ二人トモニコエヲアケテ終夜念佛スル事ア
タリノ人モオトロクハカリナリケリツ井ニ臨終正念ニシテ往
生ヲトケニケルヨシツタヘキ、終テ機類萬品ナシトモ念佛
スレハ往生スル現證ナリトソオホセラケル

第五段

同國室ノ泊ニツキ給ニ小船一艘ヲカツキキタルコレ遊女

カフ子ナリケリ遊女申サク上人ノ御船ノヨシウケタマハリ
テ權參シ侍ナリ世ヲワタル道マキチナリイカナルツミアリテ
カカ、ル身トナリ侍ランコノ罪業ヲモキ身イカニシテカノチ
ノ世タスカリ候ヘキト申ケレハ上人アハシミテノ給ハクケニモ
サヤウニテ世ヲワタリ給ラン罪障マコトニカロカラサレハ酬
報マタハカリカタシモシカ、ラスシテ世ヲワタリ給又ヘキハカリ
コトアラハスミヤカニソノワサラステ給ヘシモシ餘ノハカリコト
モナク又身命ヲカヘリミサルホトノ道心イマタオコリタマハス
ハタ、ソノマ、ニテモハラ念佛スヘシ彌陀如來ハサヤウナル
罪人ノタメニコツ弘誓ヲモタテタマヘル事ニテ侍シタ、フカ
ク本願ヲタノミテアヘテ早下スルコトナカシ本願ヲタノミテ

念佛世ハ往生シタカヒアルニシキヨシ子シコロニラシヘ給ケレ
ハ遊女隨喜ノ涙ヲナカシケリノチニ上人ノ給ケルハコノ遊
女信心堅固ナリサタメテ往生ヲトクヘシト歸洛ノトキコ
コニテタツ子給ケレハ上人ノ御教訓ヲウケタマハリテノチハコ
ノアタリチカキ山里ニスミテ一ス千ニ念佛シ侍シカイクホト
ナクテ臨終正念ニシテ往生ヲトケ侍キト人申ケレハシツ
ランシツラントソオホセラレケル

第三十五卷

第一段

三月廿六日讚岐國塩飽ノ地頭駿河權守高階保
遠入道西忍カ館ニツキ給ニケリ西忍去夜ノ夢ニ満月

輪ノヒカリ赫爽タルタモトニヤトル、ミテアヤシミオモヒケル
ニ上人入御アリケレハコノ事ナリケリト思ヒアハセケリ藥
湯ヲマウケ羨膳ヲト、ノヘサニサニモテナシタテマツル上人
念佛往生ノ道コマカニサツケ給ケリナカニモ不輕大士ノ
杖木尾石ヲレノヒテ四衆ノ縁ヲムスヒ給シカコトクイカナ
ルハカリ事ヲメクラシテモ人ヲス、メテ念佛せしメタマヘアヘ
テ人ノタメニ侍ヌソトカヘスカヘス附属シ給ケレハフカクオ
ホセノム子ヲマモルヘキヨレヲソ申ケルソノ、チハ自行化他
念佛ノホカ他事ナカリケリ

第二段

讚岐國子松庄ニオチツキ給ニケリ當庄ノ内生福寺ト

イフ寺ニ住シテ無常ノコトハリヲトキ念佛ノ行ヲス、メ給
ケレハ當國近國ノ男女貴賤化導ニシタカフモノ市ノコト
シ或ハ邪見放逸ノ事業ヲアラタメ或ハ自力難行ノ執
情ヲステ、念佛ニ歸シ往生ヲトクルモノオホカリケリ邊土
ノ利益ヲオモヘハ朝恩ナリトヨロコヒ給ケルモ、コトニコトハ
リニソオホエ侍ルカノ寺ノ本尊モトハ阿彌陀ノ一尊ニテオ
ハシニシケルヲ在國ノアヒタ脇士ヲツクリクハヘラレケルヲ
勢至ヲハ上人ミツカラツクリ給テ法然本地身大勢至
菩薩爲度衆生故顯置此道場我毎日影向擁護歸
依衆必引導極樂若我此願念不令成就者永不取
正覺トソカキヲカレケル勢至ノ化身トシテミツカラソノ體

ヲアラハシナノリ申サレケルマコトニイミレクタウトキ事ニテソ
侍ケル

第三段

上人左遷ノ、千月輪ノ禪閣朝暮ノ御ナケキアサカラス
日來ノ御不食イヨイヨヲモラセ給テ大漸ノ期千カツカセ
給フ藤中納言光親卿ヲメシテ仰ヲカレケルハ法然上人
年來歸依ノイタリサタメテ存知アルラン今度ノ勅勘ノ
申ユルサスレテ謫所ヘウツラシヌル事イキテ世ニアル甲斐
ナキニ似タリレカシトモ嚴旨ユルカラス左右ナク申サンコ
トヲソレオホユルユヘニ後日ヲ期レテスクルトコロニスレテ終
焉ニノソメリ今生ノウラミコノ事ニアリ我他界ニオモムクト

イフトモ連々ニ御氣色ヲウカ、ヒテ恩免ヲ申ヲコナハルヘ
シトカキクトキ仰ラレケレハ光親卿仰ノム子更ニ如在ヲ存
スヘカラサルヨシ申テ涙ヲナカサレケリ同四月五日御臨
終正念ニシテ念佛數十遍禪定ニイルカコトクシテ往生
ヲトケサセ給又御トシ五十八ナリ上人左遷ノ、千イク程
ナクテコノ御事キコエケリ御アハシラレハカルヘシ後ノ京極
殿ハサキタ、世給マツノ御子東山ノ禪閣家替ニテ御ア
トヲツカセ給キ月輪殿御歸依ノ餘慶ヲラケヲナシク上
人ノ勸化ヲ御信仰アリケリコトニ六方恒沙ノ諸佛ノ
證據ヲタラトミテ阿彌陀經一萬卷摺寫ノ大願ヲオコ
シカタ木ヲ異朝ニヒラカセラシテ摺寫ノ弘通ヲヒロクセラ

ルカノ經オホク吾朝ニ流布セリ發願ノ志趣經ノ奥ニノセ
ラルカノ狀云十萬ノ寫功ニヨリテ萬德ノ尊容ヲ禮シ彌
陀ノ說法ヲキ、テ普賢ノ願海ニイリ隨類ノ形ヲ化現シ
テ舊土ノ徒ヲ慈愍シア、子ク長夜ノ子フリヲトロカシテ
ヒトシク覺悟ノ曉ニイタラシメン衆生無始ノ身宴坐々、
眼ニアリ塵默劫數ノ業コ、ロラシツムルニ念ヲイテス哀
哉ヤコノ筆舌ハシメテコノ言語ヲカタラン事子カハクハ紫
金ノ毫光白骨ノ微功ヲテラシ給ヘトナリ

千時文曆第二歳乙未仲春第二日從一位藤原朝
臣道家敬白云發願ノム子自他ヲカ子異朝ニヲヨホシテ
ソノ願ヲハタサレケル御コ、ロサシマコトニタウトクモ侍カナ

第四段

上人流刑ノヨシ遠近ニキコエシカハ津戸三郎爲守フカ
クコレヲナケキテ遼遠ノサカヒナリトイヘトモ武藏國ヨリ讚
岐國へ書狀ヲ進スルトキ上人ノ御返事云七月十四
日ノ御消息八月廿一日見候又ハルカノサカヒニカヤウニ
仰ラレテ候御コ、ロサシ申ツクスヘカラス候マコトニシカル
ヘキ事ニテカヤウニ候トカク申ハカリナク候但今生ノ事ハ
コレニツケテモワシモ人モオモヒルヘキ事ニ候イトヒテモイ
トハント思食ヘク候ケフアストモシリ候ハ又身ニカ、ルメラ
見候心ヲキ事ニテ候ヘトモサレハコソ穢土ノナラヒニテハ
候ヘタトクトク往生ヲセハヤトコノ思候ヘタシモコレヲ遺

恨ノ事ナトハユメニモ思食ヘカラズ候シカルヘキ身ノ宿報
ト申又穢惡夜滿ノサカヒヨレニハシメ又事ニ候ヘハ十二事
ニツケテモタ、イソキイソキ往生ラシテト思ヘキコトニ候云
御文ノオモムキヨニアハレニソオホエ侍ル

第五段

直聖房トイフ僧アリキ上人ノ弟子トナリテ一向專念ノ
行ヲ修スアルトキ熊野山ヘマイリタリケルニ上人ノ配流
セラシ給ヨレヲキ、テイソキ下向セントシケルニニハカニ重病
ヲウケテ下向カナハサリケレハ子シコロニ權現ニイノリ申ケ
ルニカノ僧ノ夢ニ臨終ステニ千カツケリ下向シカルヘカラ
ストシメシ給ヒケレハ法然上人ノ御事アマリニオホツカナ

ク候ヘハハヤク下向シテウケタマハリタク候ト申ケレハカノ
上人ハ勢至菩薩ノ化現ナリ不審スヘカラストカサ子テシ
メシオホセラルトミテ夢サメヌ其後イクホトラヘスシテ臨終
正念ニシテ往生ヲトケニケリ

第六段

上人在國ノアヒタ國中靈驗ノ地巡禮シ給フナカニ善
通寺トイフテラハ弘法大師父ノタメニタテラシタルテラナリ
ケリコノ寺ノ記文ニヒトタヒモマウテナン人ハカナラス一佛
浄土ノトモタルヘシトアリコノタヒノオモヒイテコノ事ナリト
ソヨロコヒオホセラレケル

傳繪詞卷七終

傳繪詞卷七

三十一

